

## すみだタウンミーティング 議事録

<b>テーマ</b>	誰もがスポーツを楽しめるまちへ 共につくる～持続可能な“すみだ”～
<b>日時</b>	令和4年12月13日（火）午後6時30分～8時30分
<b>会場</b>	すみだリバーサイドホール／オンライン（Zoom）
<b>参加者</b>	36名（会場：30名、オンライン：6名）

### <はじめに>

**司会** タウンミーティングは、区民の皆さんと区長の直接対話を通して、皆さんの意見や想いを区政運営の一助とすることを目的として実施している。

今年度の共通のテーマとして、墨田区が昨年度「SDGs 未来都市」に選定されたことから、SDGsで掲げる持続可能な社会の実現に向け、「共につくる～持続可能なすみだ～」という副題を掲げ、すみだの未来について皆さまと区長と共に考えていく。そして、今年度最後となる本日は、「スポーツ」がテーマとなる。

区では、東京オリンピック・パラリンピックを契機に高まったスポーツに対する気運などをレガシーとして遺していくため、スポーツに関わる様々な取組みを実施している。そこで、本日のタウンミーティングでは、「誰もがスポーツを楽しめるまちへ」と題し、ゲストトークを交え、すみだの明るい未来に向けて皆さまと一緒に考えていきたい。

### <区長挨拶>

**区長** 皆さんこんばんは。本日は寒い中、そしてお疲れのところ、すみだタウンミーティングに参加いただき、誠にありがとうございます。

タウンミーティングは私が区長になってから、区民の皆さんといろいろな意見交換・直接対話をして、区政の課題を一緒に考え、よりよい墨田区を共に築いていくことを目的として続けている。今日も楽しみにしていたのでどうぞよろしくお願ひいたします。

本日は「スポーツ」をテーマにさせていただきました。ただ今お話があったように、この前行われた東京オリンピック・パラリンピックでは、スポーツによる感動をいただいた。ボクシング競技もそのレガシーとして、この間も錦糸町にある総合体育館で全日本選手権が開かれ、墨田区のスポーツボランティアの皆さんにも大活躍していただいたところである。こうしたことも墨田区の特徴にあたるのかなと思う。さらにFIFAワールドカップ・カタール大会が開催中で、日本チームの頑張りには本当に私たちも勇気づけられた。寝不足もあったが、本当にスポーツのありがたさ、良さを感じたところでもある。

このように、我々の生活にとってスポーツは欠かせないものであると実感をしている。オリンピック、パラリンピックのレガシーを墨田区政の中でしっかり遺していくということも、私どもにとって大事なテーマであると思っている。

スポーツを見るという視点、スポーツをするという視点、スポーツを支えるという視点、さまざまな楽しみ方や関わり方がある。これらの視点を踏まえ、実は来年度、墨田区では「ス

ポーツ振興計画」というものを策定して、より一層スポーツの促進を図るということを考えているが、ちょうどそういう機会がある中で、皆さま方の忌憚のないご意見をいただければと思う。さらに、本日のゲストとして公益財団法人日本パラスポーツ協会技術委員長、私の幼なじみでもある高山浩久さんにおいでいただいた。パラスポーツに限らず、本日のタウンミーティングのタイトルにもなっている「誰もがスポーツを楽しむ」ために、尽力をされている方である。いろんなお話がいただけることを非常に楽しみに思っている。

短い時間ではあるが、そういうことをお伺いしながら有意義なタウンミーティングになるように、オールすみだで、持続可能なすみだの未来の実現に向けて、一緒に考えて、実りのある会になるよう、しっかり務めさせていただく。本日はどうぞよろしくお願いたします。

### <ゲストトーク>

**「誰もがスポーツを楽しめる環境を目指して ～ひと、つながる。墨田区～」**（高山 浩久）

（※要旨）

障がいがある人もない人も、子どもからお年寄りまで、みんながスポーツを通して地域づくりをして、楽しさを共有できるように思っている。障がい者スポーツを交えてお話しする。

例えば、パラバドミントンというと、足に障がいがある方が、車いすに乗ったり義足をつけたりして行うものというイメージがあるかと思うが、発達障害がある方など、実はいろんな障がいのある方が楽しんでいる。

小平市では、地域振興事業といって、社会福祉協議会と連携、協働して行っている特別支援学校で、まだボッチャが盛んじゃなかった頃からボッチャ教室にも取り組んできた。写真は障がいの重たい方々がボッチャを楽しんでいる様子だが、支え手としてヘルパーさんも一緒に参加して楽しんでいる。小平市の職員の方も指導しながら支えている。小平市のスポーツ指導員の方も支えている。スポーツボランティアの方も支えている。ただし、みんなで支えているだけではなく、みんなが楽しい空間を共有している。このことが最も大事だと私は思っている。

障がい者スポーツ、パラスポーツというと何か特別なものを想像される方も多いと思うが、実は障がいのある方もない方も一緒にスポーツである。障がいのある方もない方と同じように、多くの健康づくり、レクリエーションなどを楽しんでいる。墨田区にも多くの視覚障害の方がいると思うが、一緒にウォーキングをするなど、一緒に楽しんでもらいたい。また、普段は公園や神社に行かない方でも、夏休みにラジオ体操のスタンプをもらいに行くような時、その仲間に障がい者の方も加えてほしいと思う。こういった身近なスポーツを通して、人と人とが相互理解し合う、そういう取組みをしてほしい。

施設や設備の話に移るが、障がいのある方に使いやすいスポーツ施設をつくると、実は多くの方、高齢者の方など誰にでも使いやすい施設になる。障がいのある方も工夫しながら、スポーツ施設にある機械を使うものも含めて、さまざまなスポーツを楽しんでいる。立ったままでなく座ってやるなど、ちょっとした工夫をすると、障がいのある方、高齢者の方がスポーツをしやすくなる。障がいの有無に関わらず、一緒にスポーツをやる機会があるといい。

繰り返しとなるが、障がいのある人もない人も、スポーツを通して相互理解をして、豊かな地域づくりに結びつけてもらいたいということを今日はお話しさせていただいた。障がい者スポーツを推進していくことは、実は多くの区民の方がスポーツに親しめる環境づくりに繋がることを伝えたいと思っている。

### <ゲストトークを受けての意見・感想>

**区民A** 区長に質問する。こういったことをやるための施設、例えば、特別支援学校の体育館など、区民が利用しやすい場所で行うことを考えているか。

**区長** 実は、東京都の障害者スポーツセンターを見に行ったことがあり、そこでいろいろな気づきがあった。運動する際に、少し段差をつけることによって、足の不自由な方が動きやすくなるというようなことがあった。それから例えば更衣室の問題など、いろんな気づきを、高山さんからご指摘ご指導いただいて、一旦持ち帰ってきた。

現状、墨田区には総合体育館と総合運動場という大きな施設が二つある。それぞれ人気があり、利用希望者が大変多いところでもある。サッカーグラウンドや野球グラウンドもある。しかし、よく見てみると、障がい者専用の配慮がある施設であるかという点が残念ながらそうでもない。人気があつて予約がなかなか取れないこともあるので、今のご質問というのは、今日のテーマの中では大変重要な視点と捉えている。そうかと言って、これからスポーツ施設を墨田区内にたくさん作ることはなかなか難しいことでもあるが、それをどういう風にクリアしていくのか、墨田区政の中の課題であると認識をしている。

**高山** 平成27年度に東京都と東京都障害者スポーツ協会で作成した、障害のある方にもスポーツ施設をもっと利用促進できるようなマニュアルを、ちょうど今年度また作成している。その作成のために、総合体育館と総合運動場もヒアリングや見学に行き、このマニュアル作りに活かしている。

先日、総合運動場で行われたイベントにお邪魔した。その時は東京都リハビリテーションセンターの通所者の方もおいでになっていて、我々もニュースポーツの体験会に参加した。どうしたらニュースポーツの環境が整えられるか、当協会と墨田区と連携、協働していきたいと思う。

**区民B** いろいろな障がい者の方も含めて、交わり合うことがとても大事だと改めて認識した。実際そういった活動に参加している健常者の方は、どれくらいの世代の方で、どういった思いを持って参加されているのかお伺いしたい。

**高山** 幅広く参加いただいている。東京都障害者スポーツセンターにはボランティアを受け入れる事業が数多くあり、1,000くらいある。以前は中高年の方々が多かったが、最近は若い方々も多くなっている。特に、最近では2、3校程度の大学と連携しているので、多くの学生さんにも協働してもらっている。

**区長** 二つのご質問は的を射たものだと思っている。高山さんに来ていただき、お話をいただいたということが今回は一つのポイントでもあるので、このことを我々がどう考えていくのか、というご指摘でもある。

もう一つは、こういうことを通して、墨田区のまちづくりにまで広がっていくお話でもあるのかなと思った。ご質問のように、健常者がどのように関わるかということや、ボランティア、高山さんから大学との連携のお話もあったが、様々な人がいる。そういう多様な皆さんが、このまちを良くしたいと思い、スポーツを通して繋がっていくこと、実はそれがすみだのまちづくりでもあるんだということを、今日一日で答えが出るわけではないが、高山さんのお話を聞いていて思ったところである。

### <スポーツ振興計画の概要説明>

#### 「墨田区スポーツ振興計画」の策定について（墨田区スポーツ振興課）

##### （※要旨）

来年度に策定される、仮称「墨田区スポーツ振興計画」についてご説明をさせていただきます。

私どもは日々スポーツ振興の業務に携わっているが、抛りどころとなるものが二つある。一つ目はスポーツ庁が定めているスポーツ基本法、二つ目は、同じくスポーツ庁が定めているスポーツ基本計画である。

##### ①スポーツ基本法

スポーツは世界共通の人類の文化であるという文章から始まる。これを基に、スポーツを通じて豊かな人生を営むことは、全ての人々の権利であるということ、スポーツを通じて全ての国民が日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える、こういった活動に参画することのできる機会を確保する、この二つの理念を掲げている。

##### ②スポーツ基本計画

2022年に制定された5ヵ年計画である。大事なポイントが二つあり、一つ目は、スポーツは「する」「みる」「ささえる」という、様々な形での活動を通して、人々が感じる楽しさや喜びに本質を持つものだということ。二つ目は、スポーツを通じて、様々な社会課題を解決したりすることができるという、社会の活性化にも寄与するものであること。

東京2020大会のレガシー、ポストコロナ、共生社会、SDGsなどの我々を取り巻く環境の変化に応じて、スポーツも柔軟に対応していく必要がある。計画の策定により、スポーツを通じて人と人との絆が深まって、地域力の向上に繋がっていくことを目指していきたいと考えている。

なお、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」という観点で話をしているが、「する」スポーツというのは、例えば自転車通勤や、エレベーターは使わず階段で上がるといったことも含め、広くスポーツと呼ばせていただいている。そういった様々な観点からご意見をいただければと思う。

私どもとしては、老若男女問わず、障がいの有無に関わらず、全ての方がスポーツを楽しめる環境を整備していきたいと考えている。本日皆さんからいただいたご意見を参考にしながら

ら、「スポーツ振興計画」を進めていきたい。

## <ディスカッション>「誰もがすみだでスポーツを楽しむには？」

### 【1. スポーツを「する」視点①】

**区民C** 私はテニスをしているが、我々のクラブはすみだファーストテニスクラブと言う。1978年、今から44年前、錦糸コートで公式のテニスクラブ講習会があり、そのときにできたテニスクラブで、墨田区で最初に講習会からできたクラブである。一時は30名ほどいたが、現在15名ほどで毎週活動している。

「する」側からしてみると、今、文花コートがクレイ(土の)コート、それから錦糸公園がオムニ(人口芝の)コート、堤コートと東墨田がコンクリートなので、ケガをするのが一番危険である。我々はスポーツ保険に入っているが、もし整備が可能ならオムニコートにしていだきたい。また、聞くところによると、文花コートがなくなるようなのでその確認をしたい。

**区民D** すみだ花体操普及委員会に所属している。「する」側として、すみだ花体操普及員が100名弱おり、各コミュニティセンターや老人ホーム等で指導をさせていただいている。問題は定期的にできる場所がなかなかないということ。優先的に借りることは無理かなと思うが、その辺りのことを考えていただけたらありがたいと思う。

**区民E** 「する」及び「みる」に関わるが、大相撲をクローズアップしていきたいと思っている。大相撲は国技で、両国に住んでいると相撲部屋もたくさんあるので、日常茶飯事でお相撲さんに出会う。地方の友達に話すと、お相撲さんに会えていいねと言われる。外国人の方向けの相撲部屋の見学ツアーなどもやっているが、区が主体となって何かできないかと思っている。JCI(日本青年会議所)主催の「わんぱく相撲」もボランティアで参加したことがあるが、こういったもの、例えば、墨田区相撲大会というものをつくったり、墨田区が協賛という形で、民間でやっていったりして、小さい子どもから高齢者まで普及させていきたい。また、相撲ファンクラブなども作って、大々的に活動できればと思っている。

**区長** テニス、花体操、どちらも会場、場所の問題をご指摘いただいた。今はたまたまテニスと花体操だが、全てのスポーツに共通するお話だと思う。もちろん野球であったりサッカーであったり、バスケットボールだったりバレーボールだったり、とにかく様々なスポーツがあるが、墨田区は非常に狭い地域でもあるので、練習会場も含めて、大きな体育館や大きな広場がなかなかなく、苦しい部分もあるかなと実感はしているところである。

テニスに関しては、ご指摘いただいたクレイコート(文花コート)の件、大学やあずま百樹園との関係をどう考えていくのかということと、仮にそこがなくなった場合には、代替地をしっかりとご用意して、オムニコートで対応できればと考えている。そして、新しいところで活動が活発になっていただければと思う。また、花体操も会場の問題があると思うので、定期的に場所を提供できれば良いと思うが、是非またお話を伺いながら、調整させてほしい。

それから大相撲については、墨田区の誇る歴史的なスポーツ、武道であり、国技である。子

ども達がやってくれると、墨田区出身のお相撲さんが出てくるとか、そういう夢もある。J C Iの人たちが「わんぱく相撲」を開催し、運営という立場で携わりながら、区の子どもたちも「わんぱく相撲墨田区大会」でみんな頑張ってやってくれているので、こういうものを広めていく。それから、今年は日本相撲協会と連携協定を締結したので、相撲ファンもたくさんいる中で、すみだイコール大相撲というのをしっかりPRしていきながら、子どもたちに相撲のあるまちだということで育てていってもらおう。これから連携協定を基にしっかり取組んでいきたい。

**高山** 私は子どもの頃から相撲が大好きである。オリパラの機運醸成のために、日本相撲協会が外国の方、幼稚園、保育園児、障がいのある方を招待するイベントが実施されたが、私も引率で行った。大相撲はまさに見るスポーツだと思う。普段なかなか目にすることのできないスポーツなので、そういったものを日本相撲協会と連携して、ぜひ、多くの区民の方が観られる機会ができるといいなと思う。

また、場づくりという部分では環境設定など、なかなか一筋縄ではいかないところがあるが、そこもいろいろなところと連携して、場を作っていく、仕組みを作っていくことでなんとか解消の方向に向かってほしいと思う。

## <ディスカッション> 「誰もがすみだでスポーツを楽しむには？」

### 【2. スポーツを「する」視点②】

**区民F** 普段はサッカーの指導をしている。同じような話になるかもしれないが、今、すごくスポーツのニーズが高まっている。いろんな団体がスポーツをするために、地元でチームや団体を作っていると思うが、墨田区は施設が圧倒的に足りていないかなと思う。

その中で、学校の活用はすごく大事だと思っている。例えば、体育館の利用時間を前倒ししたり、後ろに延ばしたりできないか、など。また、まだまだ校庭がコンクリートの学校がたくさんあるので、学校改修の視点だけでなく、スポーツをするという視点で施設改修の計画も立てられないか聞いてみたい。

**区民G** 区内にあるiU（情報経営イノベーション専門職大学）で学んでいる。私はサークルには入ってないし、また、墨田区でスポーツをしている訳でもないが、先ほど出てきた小学校の活用に関して、大学のサークルでスポーツ施設を利用しようと思った時に、使える場所の候補が少ないかなと思った。

なんで候補が少ないのかと考えると、運営側の手間が非常に多いのではないかなと思う。時間の制約の面で言うと、その時間に誰もいないから貸せないといったことがあると思うが、そこはITやIoTの仕組みで改善できるような気がしている。例えば、実際にできるかどうか、コストがかかるかどうかは置いておいて、体育館の鍵を電子化して、カードで開くようにすることなどが考えられる。あとは、体育館が現状維持、原状復帰されているか不安であれば、カメラを設置して、授業中は絶対に作動しないようなシステムにしておくといったことをすると、利用時間を延ばせたりするかなと思った。

もう一点、誰もがすみだでスポーツを、ということに関して、いろんな人が集まることだと思うので、多世代が集まる運動会みたいなものを、iUや墨田区の皆さんと一緒に企画して運営できたら面白いのかなと思っている。

**区長** 学校の環境のお話もあったが、要は「する」という立場を考える時に、競技人口をしっかり保ちながら、青少年の育成や指導も含めて、区役所としていい環境を作っていく。その中で、仲間ができたり、交流が繋がったりして、その競技がしっかりと運営されていく、「する」ことができる、チームが存続する。そういう考えも重要だなと思う。

学校については、活用できる部分は活用すべきだと思う。これは教育委員会の教育長をはじめ、多くの皆様と連携しながら、少しでも環境を良くするために協力体制を作っていくことだが、どうしてもセキュリティや予算の話になると、学校施設の壁というのは多少なりともある。DX化も含めて、使い勝手を良くできるかというのは検討の余地があるのかなど。いずれにしても、サークルやチーム事情がどうなのかとか、何が困りごとなのかとか、「する」人の立場に立って、100%お応えするとはなかなか言えないが、そこをご理解いただきながら、私たちは課題をクリアしていくことが必要だと改めて思う。

それから、多世代の運動会は非常に面白い。墨田区では町会ごとに運動会をやっているところもあるが、地域の力や町会の歴史があって、開催しているところもある。そういう意味では、スポーツに勤しむというか、「する」環境を整えるという意味で、非常に面白い提案だと思っている。

**高山** 施設のお話はコメントする立場にないと思うので差し控えるが、印象に残っている運動会を二つ申し上げる。

一つ目は千代田区である。四谷にある運動場で、町内会対抗で実施していた。皆さんが飲み物や食べ物を持ち寄って、本当に楽しみながら運動会が行われていた。

もう一つはあきる野市で、いち早く、障がいのある方に対する防災活動の普及とスポーツ活動の普及を掛け合わせて取り組んできた市である。障がいのある方の防災を種目にした運動会を行っていた。防災は墨田区にとっては大きな、大きな課題の一つだと思うので、防災と運動会を兼ねてやってもいいのかなと思う。

## <ディスカッション> 「誰もがすみだでスポーツを楽しむには？」

### 【3. スポーツを「みる」視点】

**区民H** バasketボールをやっている。「みる」という観点ではないが、東京都から支援が出るのでちょうどいいと思い、シニアの大会を企画したことがある。シニアの場合、身体は動きにくくなっているが、その分知恵がいっぱいある。プレーするだけでなく、小学生に教えることや、子ども向けの内容を含めた大会を企画しようとして、シニア大会に小学生を交えようとしたら、東京都から支援が出なくなってしまった。このような取組みには是非とも支援を出してもらいたい。

それから次に、新しいことをやろうとした時に、いろんなスポーツに出会えるといい。新し

いスポーツという、例えばeスポーツ、ゆるスポーツ、超人スポーツとか、必ずしも身体を動かさない、機械を使うようなスポーツもどんどん組み込めるといい。新しいスポーツというところに面白いのが、首都高マラソンをやろう、そんなことで盛り上がっている。首都高速を封鎖してのマラソン計画はどこまで進んでいるのか。墨田区スタートでどんどんやってほしい。

さらに高山さんのお話から、障がいのある人もない人も一緒にスポーツができるということを知って、逆に、障がいのある方の方が有利になるようなものはないのかなと。例えばサッカーは手を使っちゃいけないように、見えちゃいけない、聞こえちゃいけない、とかをルールにして、いろんなスポーツで、障がいのある方の方が有利になるものはないかなと思っている。2025年にはデフリンピックがあるが、そこで墨田区はどんなところに輝きを見せるのかなということが気になってしょうがない。

**区民 I** 「みる」という観点で、先ほどのお話を聞いて、サッカー大会など何か大きな大会で、みんなで応援できる場所があったらいいなと思った。また、大きな大会だけでなく、例えば地域でサッカーやテニスの試合がある時に、それを地域の方が観るというように、地域の中であたたかな観戦の機会があったらいいなと思った。

**区民 J** 今の方の発言について、ラグビーワールドカップの時、スカイツリーにおいて皆さんで観戦して、大変盛り上がっていたということがあるので、そういったスペースを使って観戦の場を設けていただければ、もっともっとスポーツが広がっていくと思う。

**高山** お一人目の発言の中に、キーワードがいくつも出てきた。

まずeスポーツだが、私ども東京都障害者総合スポーツセンターでは、今年度から教室を行っている。ちまたで流行っているような対戦型ではなくて、画面タッチのものなど、みなさんが簡単にできる内容にしている。目指しているのは、四肢麻痺の方が、目の動きだけでサッカーゲームやバスケットボールゲームに参加できることである。今は目の動きだけで電動車いすを操作できるところまで来ているので、必ずやそこに辿り着きたいと思っている。

また、シニア向けのバスケットボール大会について、掛け合わせるなら、障がいのある方とシニアの方のバスケットボール大会も面白いのではないかなと思った。

デフリンピックに関連して、私は卓球の、障がいのある人とない人のイベントに20年くらい前から関わっていた。協力していただいたのは、墨田区民で、現在JOCの専務理事をやられている星野一朗さんという方。また、日本卓球リーグ専務理事の佐藤真二さんを中心に、デフリンピックの卓球の監督や選手強化と一緒にやっている。墨田区は、実は昔から卓球を支援していたという話。

最後に、「みる」スポーツの中で、先日、総合運動場でブラインドサッカーのトップリーグの最終戦があり、多くの区民の方々が目の不自由な方のサッカーを応援した。区長もお見えになったが、本当に感動してくださった。こういった場をもっと作っていただければと思う。



**区長** 高山さんは経験豊富なので、eスポーツなどの新しいスポーツ、デフリンピックも含めて、こんな組合せがいいのではないかとということを瞬時にお話しされていたが、今後も新たな発想で、組み合わせてみんなで「する」機会、またそれを「みる」機会を作っていきたいと思っている。

パブリックビューイングの話で、前のラグビーワールドカップではスカイツリーさんと組んで、全試合パブリックビューイングをやった。ただ、予算をつけてやるものなので、当初は3回分しかお願いしていなかったが、これが本当に大盛況で、特に日本チームの頑張りもあって勝ち進んだので、もう一試合スカイツリーさんにもご協力いただいて、パブリックビューイングを盛り上げたということがあった。今やっているFIFAワールドカップは真夜中なので厳しいと思うが、今後パブリックビューイング等を実施する場合、どうしてもそこには実施するための根拠が必要にはなってくるが、私はスポーツが大好きなので、是非やりたいと思う。

それから、応援について、例えば少年サッカーで頑張っている子たちがいて、関東大会に出て3回戦目まで行っているという現実があるが、区としては見に行ったり、応援したりはなかなかできない。ただ、そういう事実がある、こんなに頑張っている子たちがいる、できたらみんな応援に行こうよという流れが、情報発信の世界の中で、非常に大事だと思う。

それから、今野球でも、墨田区出身のプロの選手も何人もいるが、東海大菅生のエースは墨田区出身の子で、プロになるのではないかとされている。そういう子が現実に、ついこの間の試合にもいた。それから水泳。すごい選手がいて、この前、金メダルを取って帰ってきた子がいる。いろんなところで頑張っていて大きく育って、活躍している選手がいるということで、区はそういう選手をしっかりとPRしながら、応援できる体制を整えていく。これは「みる」ことにも繋がるし、そういう人を目指して、みんながそれぞれのスポーツを楽しむ、または上を目指していく、そういうことにも繋がっていく。パブリックビューイングで興味を示す、それから、頑張っている子たちを応援する機会があるというのは、テーマの一つではないかと思っている。もしかしたら、まちづくりにも繋がっていくのではないか。

## <ディスカッション> 「誰もがすみだでスポーツを楽しむには？」

### 【4. スポーツを「ささえる」視点】

**区民K** スポーツ関連で、小学校、中学校、高校、全国で1年間、約50人の子どもが亡くなっている。原因は3つ、熱中症、心臓発作、首を損傷するという状態である。スポーツ振興計画を立てるとのことだが、私からの提案は、来年、安全に関する予算を是非取っていただきたい。一つ参考に、NPO法人スポーツセーフティジャパンという団体があり、安全に関する講習会やeラーニングの実施、それから施設にどんな用具を置いておいたらいいかといったことを教えてくれるところがある。スポーツをしている団体、個人、指導者が講習会を受けるなどして、墨田区として安全を担保していくことを是非やっていただきたい。

**区民L** 墨田区のスポーツボランティアをしている。支えるということで考えると、墨田区の場合は、スポーツ推進委員と私たちスポーツボランティアが中心になってくると思うが、その中でも、スポーツボランティアのことについてお願いがある。今日もお手伝いしている二

人のユニフォームを見ていただきたいのだが、東京オリンピックの時のおもてなしのポロシャツで、要するに使い回しである。墨田区のスポーツボランティアということで、是非ちゃんとした制服を作っていただきたい。

それから、ボランティアはやはり継続していただかないと意味がない。例えば、私は他の区でもボランティアをやっているが、Zoomを使った定例会でいろんな情報交換をしたり、親睦を図ったりということを定期的に行っている区もある。人材を育てる意味で、そういったものを墨田区の中でもやってほしい。さらには、名前が入ったものとか、一回参加するとスタンプを押してもらえ、貯まると何か特典と交換できるということをやっている区もたくさんある。そういったものが墨田区にはまだないので、是非検討いただきたいと思った。

**区長** 一点目の観点は非常に重要だと私も思っている。実は6歳から56年間、剣道を続けているが、今でも子ども達とも稽古をする。

剣道も危ない競技で、竹刀がのどに入ってしまうようにとか、力のある人が子どもに稽古をつける時も注意しながらやっていかないといけない。ただ、私が子どもの頃は、逆に繰り返し痛い思いをしたり、怖い先生などからの指導を受けたりしながらやってきたが、だんだん歴史が変わって、今の状況を冷静に認識すると、セキュリティ面は大事だなと思う。剣道の場合は、しっかりした審判講習会と、指導における講習会がある。それから、何か起きた時、暑かったり寒かったりもするので、そういうところも、剣友会単位、墨田区剣道連盟単位で、社会体育指導員の免許を持っている先生達で、みんなで意見交換しながら研修を積んでいる。非常に大事だと思っていた、区のスポーツ全体で研修会講習会を行うということが、スポーツ振興計画にも必要になるかどうか、予算の問題もあるが大事な視点だと認識したところである。事故があってはいけない、何かのアクシデントで亡くなるなんてことは非常にいけないことであると思う。最近は熱中症も相当レベルなので、屋外スポーツにおいてはケアしないとといけない。今日は暑すぎるから思い切って休みにするとかもあるのかなと。そういう点、ケガも含めて、私たちはケアしていかないといけない。貴重なご意見と受けとめた。

それから、ボランティアのみなさま方には、このところ本当にご活躍いただいている。区としては、東京2020大会を契機に、スポーツボランティアという文化をしっかりと広げていって、それがレガシーとなって、まちづくりやキーマンとしていろんな形で動いていただけたら、まちは活性化していくのではないかなという思いもありつつ、みなさんをお願いをさせていただいているところである。やっていただく中で、ユニフォームやグッズ、情報交換の機会は非常に大事な要素だなと今感じたところである。どんな形でやるかは検討させていただいて、みなさんの活躍が目立つというか、みなさんがいいよ、協力しますよという域につながる形を取っていくことが、私たちに必要なことかなと思っている。貴重なご意見ありがとうございます。

### ＜グループで意見交換＞

「5年後のあなたは、どんなふうに関わっていたいか！」

(テーマについて各自で意見をまとめた後、グループ内で意見交換を行った。その後、3グループ

がグループ内で出た意見を発表した。)

**Cグループ** 自分たちのグループには、実際にボランティアをやっている方がいた。5年後どんなふうにスポーツと関わってみたいかについては、市内で体育祭を開いてみたいとか、障がいのある人の力になりたいとか、障がい者スポーツを広げたいといったものだった。自分は、小・中学生を含めてみんなと一緒にスポーツに関わりたいと思っている。

いろいろな方面で意見が出た中での共通点は、世代や障がいの有無にとらわれずに楽しみたいとみんな考えているのかなと思った。やっぱり、先ほどの多世代の運動会という意見の中にあつたように、世代、健常者、障がい者は関係なく、みんないろんなスポーツを楽しめたらいいのかなと思う。

**Aグループ** スポーツ推進委員の方とボランティアの方にも議論に参加いただいたので、スポーツを「ささえる」というキーワードが最初に出てきた。5年後には、ささえる人をささえたいと考えている方もいた。どんなささえ方や広がりがあるのかなと思った時に、墨田を越えて、日本と台湾がスポーツで繋がるという広がりをささえていきたいという意見もあつた。

また、ささえていく、広がっていくという意見だけでなく、自分にもどんなことがあるかなという、やはり健康。激しいスポーツはできないが、ただまちを歩くだけでも体も心も良くなる。それによって、さらに人と人とが繋がるといい。

私は、バスケットでシニアと繋がりたい。シニアの大会は、基本は懇親会がメイン。バスケットが辛くなってくると、まちを歩く。まちを歩いているといろいろな発見があるので、その発見をクイズにして出し合うなどの活動をし始めている。そして最後にはやっぱり懇親会をやりたいと思っている。

**Dグループ** 多くの子どもたちの夢や希望を叶えるために、次のような意見が出た。散々柔道などのスポーツをしてきたので、これからは見る方に特化したい、という意見。88歳ということで、自分で動くことはできないけれど、応援をしていきたいという声もあつた。このほか、自分もプレーよりもボランティアという形で支えていきたいという意見もあつた。

88歳の方に、同じ年代の方はどういう風にスポーツを考えられているか尋ねると、外に出たがらない、コロナになったら困るからと家族に止められてしまう、と。年配の方をなんとかスポーツに誘えないのかということが問題としてあるのかなと思う。私は、墨田区で盆踊りをやっているが、盆踊りは老若男女だれでも参加できるとてもよいスポーツだと思う。私は未来の盆踊りをやっていきたいと思っている。

**区長総括** まず3グループの取りまとめ、ありがとうございました。

聞いていて自分が恥ずかしかつたのは、66歳でも元気でプレイヤーとして頑張りたいと書いてしまい、皆さんの方が区全体を考えていただいて、特にゴルフもやってみたいとか訳の分からないことを言った自分を反省している。みなさん非常によく取りまとめていただき感謝を申し上げる。

最初のグループは、世代や健常者、障がい者、特にそういうことにこだわらず、墨田区らし

くみたいな言葉も入るのかなと思うが、スポーツを通して、みんなで広がって、豊かないい生活を送っていったらいいのではないかという理想のお話。要するに共通点というのがキーワードであったと思う。

それから、スポーツで汗を流した後の懇親会というのは芯をついているなどと思う。これが、人と人との繋がりだったり、プレーの反省だったり、ささえる側として、今日はこういうふうなささえたなとか、みる側として、今日はいい試合をみたなとか、これは、「する」「みる」「ささえる」においても、懇親会で意見交換をすることが大事な要素になっていくと思った。

最後のグループからは、年代別に、プレーをする時代もあれば、これからはみる方を頑張りたい、ささえる方で頑張りたい、応援する方で頑張りたいというお話があったが、まさにこれが今日のテーマの中で大事である。5年後であってもいろいろな形でスポーツに関わるというお気持ちは非常にありがたい。今日のテーマとしても意義のあるお話だったのかなと思う。さらに盆踊りも、体を動かし、人が交流するのでいい。ついこの間も、隅田川沿いのうるおい広場に大きな輪ができあがり、いろいろなところから墨田区に踊りに来ていただいた。これは盆踊りの聖地になるのではないかといいくらい賑わっていた。これも一つの活動というか、墨田区のいいところだなと思う。ラジオ体操連盟さんも頑張っていたっていて、墨田区はスポーツの素地が、まだまだ広がっていくものがあるのだなと思った。

そして高山さんからいろいろないいお話も伺えたので、そういうことを全てミックスして、我々はそこに仮称「墨田区スポーツ振興計画」を策定し、それを土台にして、今度は事業や施策、できれば運動会だったりマラソン大会だったり、いろいろなことに繋げていくのだなと思う。

それと健康でいることにも寄与するのかなということで、墨田区は健康長寿日本一という目標を掲げて、医療的にはがん検診に行こうとか、この病気に対してしっかり医師に治療してもらおうとか、国民健康保険のデータを見て、または地域的にどんな症例があるのかを分析して、医療的医学的な形でしっかり改善していこうということもあるが、もしかすると、皆さんが障がい者スポーツなどをみたり、ささえたりしていることによって、区民が健康になっていくこともあるのではないかと。心の面も含めて、笑顔が溢れるというようなことは今日の皆さんからいただいたご意見に繋がっていたのではないかと感じた。

今日は短い時間ではあったが、スポーツの持っている力、青少年の健全育成というところも含めて大変いいご意見をいただいたので、心から感謝を申し上げたい。皆さんありがとうございました。

以上